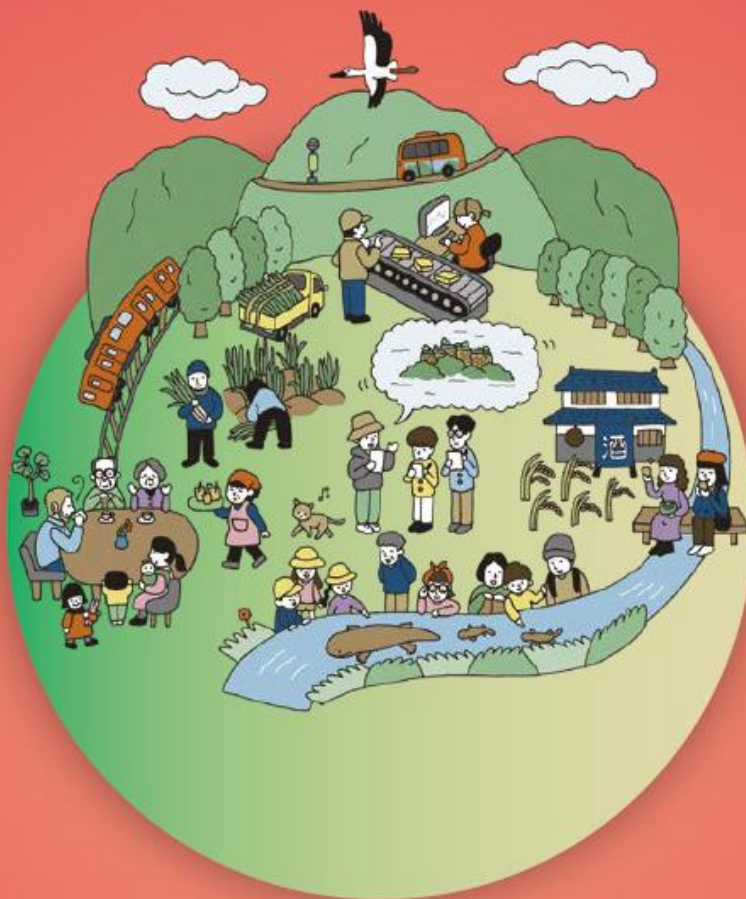


世代や立場をこえて、みんなで考える朝来の未来

ジェンダーギャップ・ジェネレーションギャップ解消 キックオフセミナー

あさご未来会議



1. 第1回、第2回あさご未来会議の振り返り
2. 第3次朝来市総合計画改訂版の概要
3. 改訂において重視した点
(将来像実現に向けて必要な考え方)

1. 第1回、第2回あさご未来会議の振り返り
2. 第3次朝来市総合計画改訂版の概要
3. 改訂において重視した点
(将来像実現に向けて必要な考え方)

令和8年度 第1回あさご未来会議

テーマ／若者・女性に選ばれ、みんなが活躍できる地域づくりに向けて

開催日時／令和8年6月27日(土) 13時30分～16時

会場／さんとう緑風ホール

参加者／49人(高校生含む)、職員20人以上

講師・ファシリテーター／株式会社Will Lab 小安 美和 さん

STEP 1 → 2

どの世代・どの場面にも、同じ「役割の決めつけ」があった

8グループに分かれ、世代別対話で浮かび上がった、3つの場面の“もやもや”と“変えたいこと”

地域

：「役は男性」「世話は女性」

もやもや

- ・ 区長、役員、消防団はほぼ男性
- ・ 公民館の掃除、炊事は女性
- ・ 「決まりだから」で習慣が更新されない
- ・ 移住者がなじみにくい、よそもの扱い
- ・ 幼少期から「料理しなさい」と言われる

変えていきたい

- ✓ 区長・役員に女性を（制度として）
- ✓ 規約・しきたりを今の時代に見直す
- ✓ 地域の仕事を見える化する

高校生・20代

「居場所・進路がない」
→ 学校・職場の声が多い

家庭

：「名もなき家事」はいつも私

もやもや

- ・ 家事・育児・PTA・介護は「母親」が当たり前
- ・ 習い事の送迎、こどものことは→全部私（母親）
- ・ 「お兄ちゃんだから」と扱いが違う
- ・ 「主人」「家内」という呼び方への違和感
- ・ 結婚・出産を周囲から急かされる

変えていきたい

- ✓ 区長・役員に女性を（制度として）
- ✓ 規約・しきたりを今の時代に見直す
- ✓ 地域の仕事を見える化する

30代～40代

「働きにくさ・両立のつらさ」
→ 家庭・職場の声が多い

職場・学校

：役割と働い方の偏り

もやもや

- ・ 管理職は男性、お茶出し・雑用は女性
- ・ 時短職員が帰りにくい
- ・ 性別で態度を変える先生への違和感
- ・ 残業、土日出勤が多すぎる

変えていきたい

- ✓ 会議の狩猟時間を決め、長時間労働を削減
- ✓ 性別ではなく、適性、意欲で評価
- ✓ 上からまず変える！女性の割合の目標を

50代以上

「担い手不足・世代が出ていく」
→ 地域の声が多い

STEP 3 / ギャラリーウォーク

“当たり前”をみんなで問い直せた

世代を越えて声を聞き合うことが、まちが変わる第一歩に。

世代を越えて見えてきたこと

1 世代が違って、同じだった

→“もやもや”は世代を越えて共通していた。

2 “逆ジェネレーションギャップ”もある

→上の世代の言葉が今は通じにくい。

世代に合わせた伝え方の工夫が必要

3 まず「気づく・聞く」ことから

→決めつけず、若者の意見や

習慣の違いを聞く機会をつくる

今日からやってみること

✓ 見える化する

✓ 対話する

✓ 声をかける

✓ 仕組みを見直す

令和8年度 第2回あさご未来会議

テーマ／性別、世代を越えて、みんなでかかわるコミュニティ

開催日時／令和8年8月2日(日) 13時30分～16時

会場／枚田岡会館

参加者／44人(高校生含む)、職員20人以上

講師・ファシリテーター／株式会社Will Lab 小安 美和 さん

あさご未来会議 グラフィックレコーディング 性別役割や世代間ギャップが参加障壁になっている現状とその解決策

会議 全体概要



- ・複数グループによる意見交換をまとめた記録
- ・世代や性別が混在するワークショップ形式
- ・議題は主に「ジェンダーギャップ」と「ジェネレーションギャップ」の解消
- ・発表や時間制限など運営面の工夫も要望
→実際に発表時間は**1分半**など短時間に配分

1 参加障壁の指摘

● 移住者の視点

地域に参加しづらく、参加が邪魔されるのではという懸念



● 女性側の障壁

発言しにくい雰囲気や「役割は男性が担う」という固定観念



● 運営上の障壁

開催時間・資格・発言権の不均衡などが参加率低下に



2 性別役割の固定

● 昔からの役割分担が根強く残る

例：身体を動かすのは男性／家事は女性



● 役割固定を前提にすると変化を起こす人が少なく、参加機会が限定される

解決の方向性

「誰がやるか」ではなく「できる人がやる」へ！
上の立場の率先した行動がカギ



3 若者の参画支援

● 若者は人間関係の負担や時間的制約が大きく、参加ハードルが高い



20代と30代だけで20人登録して活動中！



- ✓ 居場所づくり、参加しやすい時間設定
- ✓ 地域インターン等の外部人材活用
- ✓ 短時間・単発参加など柔軟な関わり方に

オープンな問い

Q どうしたら地域の固定観念や昔ながらの役割分担を具体的に変えていけるのか？



Q 何から始めるべきか、まず手を付けるべき具体的な施策は何か？



Q 外部の若者や都会の人を地域に呼び込むにはどのような支援制度やインセンティブが効果的か？



4 制度・ルールの変更

◎ ルールの見える化

誰が何をしているか把握し、ルール改定で参加条件を緩和



◎ 多様な参加方法の導入

オンライン併用、書面での参加など柔軟に！



◎ 役職・役員選出の工夫

基準を固定化しない、任期・期限を明確にし、心理的壁を下げる。



5 実践的な解決策

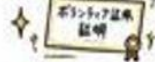
♥ 女性の強いネットワークを活用

声かけ・マッチングで参加の入口を広げる



♥ 地域インターン・ボランティア受入れ

地域主体で企画し、ボランティア証明などインセンティブを付与



♥ 場を楽しめる工夫でハードルを下げる

雑談会、甘いものを食べる会など
→徐々に役割や責任につなげる



6 コミュニティ運営の工夫

◎ 会合が長すぎる問題を改善

時間短縮、発言機会の平等化



◎ 上の世代の雰囲気づくり・見守りが重要

安心して発言できる場が育つ



◎ 既存の取り組みを一覧化し可視化

若年層や他地域に紹介し、活動を知ってもらう！



まとめ 参加の壁を下げる3つの鍵

♥ 文化的な意識改革

性別役割の固定観念を手放し、「できる人がやる」意識へ



◎ 制度的な仕組みづくり

ルールの見える化・柔軟化で多様な参加を可能に



◎ 低ハードルの参加機会を増やす

短時間の場づくり、雑談会、オンライン参加などを併用し、段階的に参画を促す



結論



1 地域参画の阻害要因は複合的

性別役割の固定観念と世代間の期待値の違いが複合しているため、文化的な意識改革と制度的な仕組みの両面に取り組む必要がある。



2 リーダーの率先行動と低ハードルの場が鍵

リーダー層の率先行動が変化の起点に。短時間の場づくり、雑談会、オンライン参加等を併用して段階的に参画を促す。



3 若者・女性を引き込む具体策が重要

居場所づくり、柔軟な時間設定、外部インターンやボランティア証明など、具体的インセンティブを組み合わせることが参加拡大の鍵押しに。



次の一歩 (まずできること)

- ✓ 短時間の対話の場を設ける
- ✓ ルール・役割の見える化を始める
- ✓ 女性ネットワークで声かけを広げる
- ✓ 若者の声を聴く機会をつくる

ひとりひとりの一歩が、あさごの未来を変える！

1. 第1回、第2回あさご未来会議の振り返り
- 2. 第3次朝来市総合計画改訂版の概要**
3. 改訂において重視した点
(将来像実現に向けて必要な考え方)

朝来市が目指す将来像

人と人がつながり
幸せが循環するまち

～対話で拓く朝来市の未来～

① まちづくりの原動力は「つながり」

- ・ 市民相互のつながり（地域力）
- ・ 市民と市内外の多様な（人・企業・団体との）つながり

→ 新しい動きが生まれる。

② 新しい動きが「幸せ」を生む

- ・ つながりから生まれた挑戦や活動、声掛けや応援もまちの力に

→ 市民一人一人の幸せにつながる。さらには、その幸せが周囲にも広がる。

③ 「対話」を通じて

- ・ 社会情勢が目まぐるしく変化、多くのことが転換期

→ 市民、市議会及び行政が、対話によって相互理解し、未来を切り拓く。

政策指標と人口指標

■総合計画で示す「幸せ」の意味

第3次朝来市総合計画の「幸せ」

≠ happiness（ワクワクするなど短い時間の感情）

= ウェルビーイング（Wellbeing）

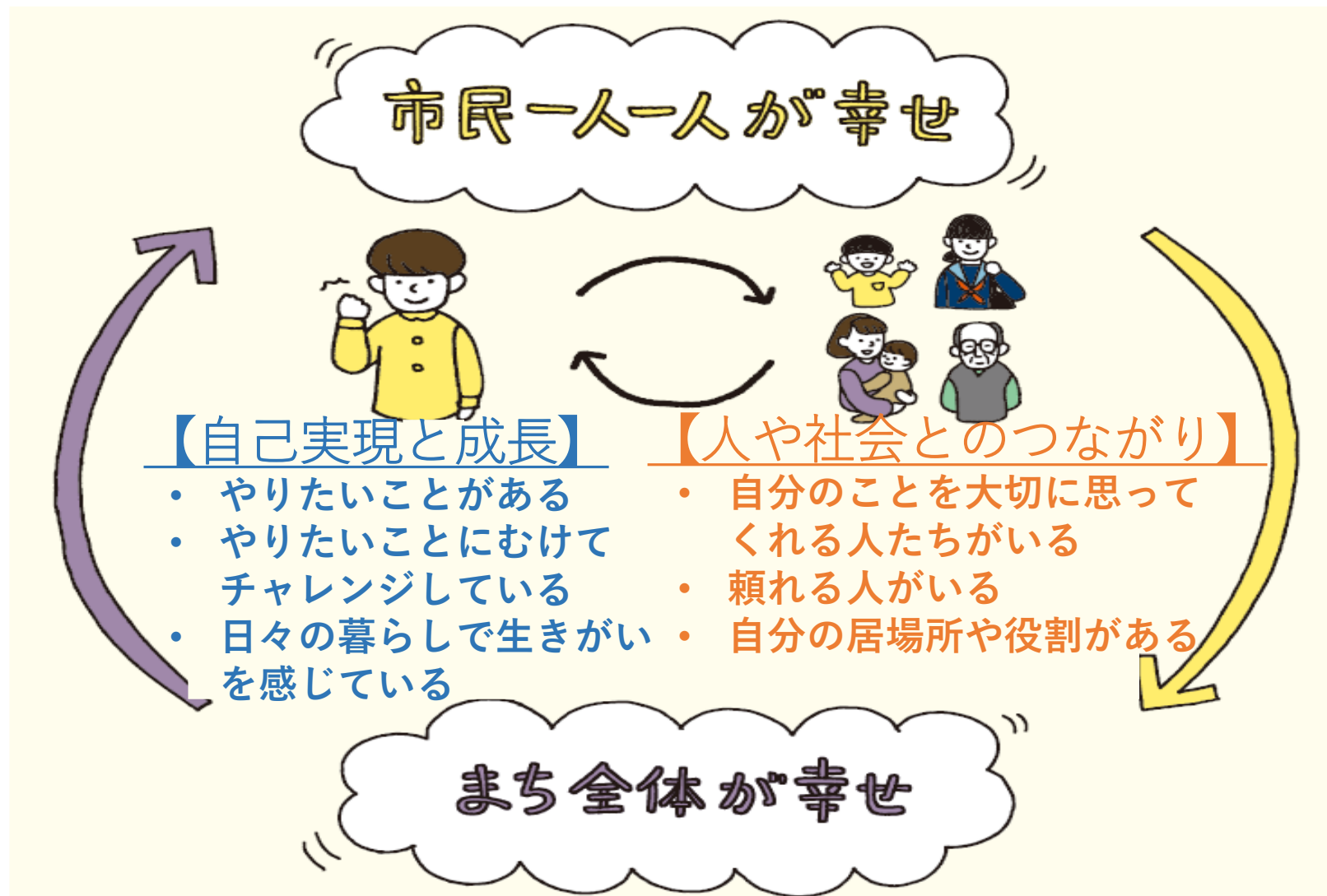
ウェルビーイング（Wellbeing）とは...

こころ・からだ・社会的に満たされた状態

社会の中で孤立せずに他者と良い関係を持つことができ、自分の居場所や役割を持つことのできる社会

政策指標と人口指標

■市民一人一人の姿 幸せの好循環のイメージ



1. 第1回、第2回あさご未来会議の振り返り
2. 第3次朝来市総合計画改訂版の概要
3. 改訂において重視した点
(将来像実現に向けて必要な考え方)

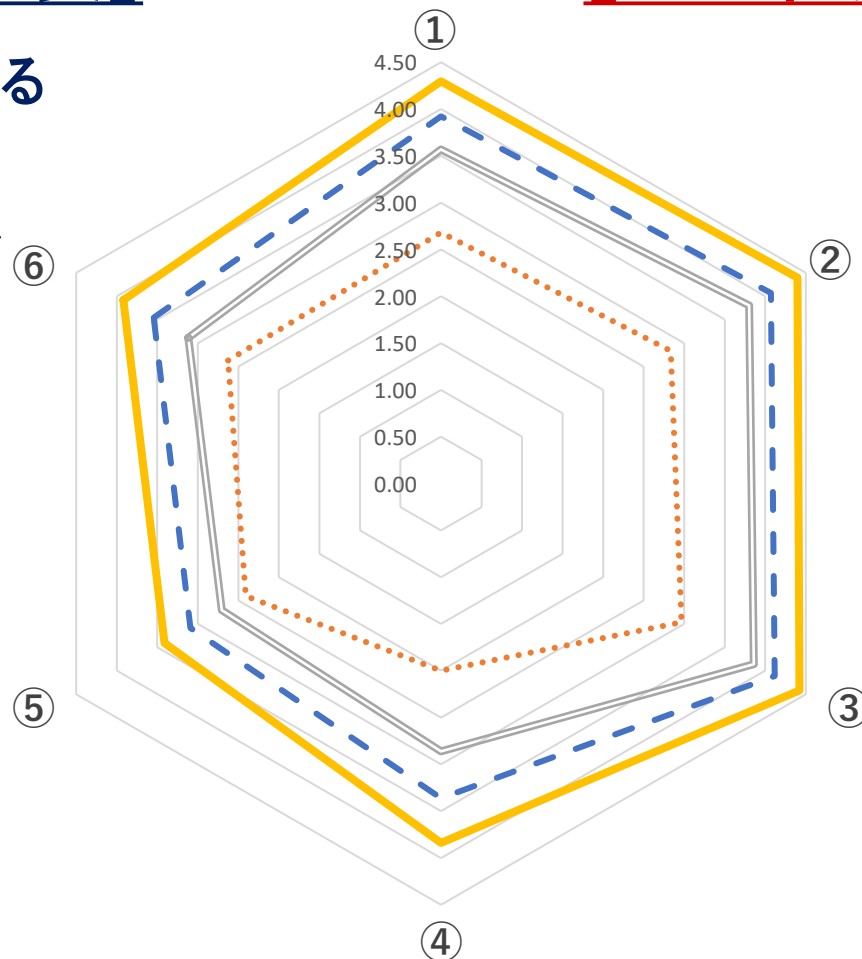
（１）市民参画の強化 ①政策指標考え方（市民アンケート結果から）

【自己実現と成長】

- ① やりたいことがある
- ② やりたいことに
むけてチャレンジ
している
- ③ 日々の暮らしで
生きがいを
感じている

【人や社会とのつながり】

- ④ 自分のことを
大切に思って
くれる人たちが
いる
- ⑤ 頼れる人がいる
- ⑥ 自分の居場所や
役割がある



- 朝来市平均
- ... 幸福度0～3
- = 幸福度4～6
- 幸福度7～10

(1) 市民参画の強化 ②政策指標考え方（あさご未来会議の対話結果から）

■あさご未来会議参加者の対話前後の気持ちの変化（※数値が高いほど、前向きな気持ちへと変化）

年代	対話前	対話後	比較
全体	3.85	4.76	0.91
10代	3.63	4.79	1.17
20代	4.33	4.89	0.56
30代	4.08	5.00	0.92
40代	4.17	4.67	0.50
50代	4.06	4.89	0.83
60代	3.44	4.67	1.22
70代以上	3.55	4.39	0.85

誘ってもらえたから
参加できた

一緒にやろうよ

協力するよ！

悩んだ時に市職員が
寄り添ってくれた

こんなに頑張っ
ている人がいるんだ

対話がいい時間
だった

応援するよ！

自分もチャレンジ
してみよう！

野菜やお菓子を
買って応援！

素敵な出会いが
あった

理解が深まった

地域の人が相談に
応じてくれた

こんな対話の場が
あることを知らな
かった



参加者の皆さんから

(1) 市民参画の強化 ③対話、アンケート結果等を踏まえて

幸福度が高い人は、

「自己実現と成長」

と 「人や社会とのつながり」 が高い

「やりたい」
(Will)を実現

「やりたい」の実現をつうじて
人や社会のつながりが育まれる

市民参加・市民参画

まち・地域で、「やりたい」(Will)
を大切にし、私・私たちのやりたい
を実現

- 
- ・ 私も、私たちも、まちも幸せ
 - ・ 持続可能なまちづくり

市民一人一人の朝来市民の幸福度 (Wellbeing) の向上
(政策指標の向上)

将来像の実現

(2) 若者視点

若者視点の取組・連携イメージ

同じ世代（属性）とつながりたい

自分らしい生き方・暮らし方が実現できる
環境づくり

共働きや核家族、兼業や副業などライフスタイルや働き方が多様化しています。仕事もプライベートも充実し、自分らしい生き方や働き方ができる環境をつくります。



コーディネートしてくれる人がほしい

SNSや動画を活用して周知してほしい

組み合わせ
掛け合わせ



まちの活動やみんなの想いがつながる
仕組み

朝来市にはさまざまな地域や市民の活動、関連する行政施策があります。地域・世代・分野・立場を超えて、まちの活動やみんなの想いがつながる仕組みをつくります。

組み合わせ
掛け合わせ

別の事業ともコラボ

企画段階から協力した

つながる場があれば参加したい



様々な人がつながる
場づくり

いろんな世代・属性・ジェンダー・国籍の人々も暮らすようになり、価値観も多様化してきました。気軽に集い、ゆるやかにつながることができる場をつくります。

組み合わせ
掛け合わせ

地域で遊ぶ・知る・学ぶ
機会づくり

朝来市には豊かな自然環境のほか、地域や暮らす人にも魅力があります。こどもも大人も、多様な世代が身近な地域で遊び、知り、学ぶ機会をつくります。



小・中・高校生も協力できる！

市民の皆さん（特に若者や女性）に「住みたい」「住み続けたい」と思われるまちを目指す

地域力の維持・向上 ⇒ 人口減少を抑制